



第40回 スマイル インタビュー



**要約筆記とはどんなものですか。**  
要約筆記は、聴覚に障害がある方に音声情報をその場で要約し、文字にして伝える方法です。

**聴覚障害の方は手話を使われているのではないですか。**

生まれた時から聞こえない方の中には手話を使っている人もおられます。しかし、聴覚障害の方の多くは、最初は聞こえていて途中で病気や事故が原因で聞こえなくなったり、聞こえにくくなった方です。その方たちは、ふだんから文字で情報取っておられます。字幕や筆談、SNSなども情報を得るための大事な方法ですが、話された内容をその場ですぐ文字にする要約筆記は、文字による同時通訳として活用されています。

**主な活動は何ですか。**

講演会や会議、行事などで、スクリーンに文字を出しています。黒い

**聞こえにくい人への接し方**

前に回って正面から話しかけましょう

聞き返しても嫌な顔しないでください

大きすぎても小さすぎても聞き取りにくい

ポロシャツにふたばのロゴが入ったユフオームを着ていますので、みなさんご覧になったことがあるのではないのでしょうか。中途失聴・難聴者個人のために、要約筆記をすることもあります。その他に、月2回例会を開き、中途失聴・難聴者の方といっしょに要約筆記や音声認識アプリの活用など、様々な文字で伝える方法を学習したり、講座や啓発活動をしています。



**身近に聞こえにくい人がいるのですか、どのように接したらよいのですか。**

ふたばでは、冊子を作っています。聞こえにくい人は様々なコミュニケーション方法を使っています。

補聴器をしていても、スムーズに聞こえているわけではありません。話をするときは、口元が見え、話題がわかるようにしましょう。伝わっていないなと感じたら、書いて伝えてください。

**みなさんに伝えたいことはありますか。**

ふたばは、正会員13名、賛助会員4名で活動しています。毎月第1、3土曜の13時から、サントピアのボランティアルームで例会をしています。聞こえにくくなって困っている方、どうぞ例会を覗いてみてください。また、要約筆記に興味をお持ちになった方も、是非いらしてください。一緒にやりましょう。仲間が待っています。

**最後に一言。**

10月1日(日)にサントピアで広島県要約筆記研究大会があります。講演会には一般の方も参加することができます。皆さんお越しください。



fu taba  
大竹要約筆記サークル「ふたば」



あ と が き

前回事議選の無投票を受けて議会では議員定数を審議してきました。定数どころか世には議会不要論を唱える本まであります。コロナ対応では民主国家より強権国家の方が対処が上手とも言われました。

でも強権国家が戦争を仕掛ければ、その暴走を止める仕組みすらありません。やはり民主国家が上でしょうね。選挙で首長を選び、これまた選挙で選ばれた議会がそれを監視する。しかし大切なことはその根っ子が共に有権者だということ。

議員定数審議も出来れば有権者の声を背に議論したかったと思います。ぜひ、有権者として思いを議員にお届け下さい。それが議論の方向性を定めるのですから。

日域 究

広報広聴特別委員

- |       |        |
|-------|--------|
| 委員 長  | 小田上 尚典 |
| 副委員 長 | 寺岡 公章  |
|       | 藤川 和弘  |
|       | 中川 智之  |
|       | 山崎 年一  |
|       | 日域 究   |
|       | 細川 雅子  |

市議会だよりは市ホームページにも掲載しています。

